

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 9 月 25 日現在

機関番号：17102  
研究種目：基盤研究(C) (一般)  
研究期間：2012～2014  
課題番号：24520294  
研究課題名(和文) コンコード・エレミヤ ソローの時代のレトリック  
  
研究課題名(英文) Concord Jeremiad: Thoreau's Rhetoric of the Age  
  
研究代表者  
高橋 勤 (Takahashi, Tsutomu)  
  
九州大学・言語文化研究科(研究院)・教授  
  
研究者番号：10216731  
  
交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：平成24年度中に本研究課題に関する単著『コンコード・エレミヤソローの時代のレトリック』(金星堂)を、さらに25年度に「ソローとダニエル・ウェブスター 『ゴッド岬』のサブテキスト」(『アメリカン・ルネサンス 批評の新生』所収。開文社)、「経済と道徳 綿花をめぐる物語」(『環大西洋の想像力』所収。彩流社)を刊行して、ソロー文学を歴史的視座から考察するうえで一定の成果が得られたと確信する。

研究成果の概要(英文)：As part of the research activities, I published a monograph Concord Jeremiad: Thoreau's Rhetoric of the Age in 2012, co-edited Transatlantic Imagination: Crossing-Over of American Renaissance and co-authored American Renaissance: A New Approach in 2013. I do believe that the research goal stated in the grant proposal has been largely attained.

研究分野：アメリカ文学

キーワード：マサチューセッツ州コンコード コンコード・エレミヤ ローカル・ナラティブ ヘンリー・ソロー  
ラルフ・エマソン ニューイングランド 奴隷制反対運動 教育改革

## 1. 研究開始当初の背景

Sacvan Bercovitch の *The American Jeremiad* (1978) が上梓されて以来、「アメリカのエレミヤ」という言葉はアメリカの文化、文学を語るうえで不可欠な鍵概念になっている。他方において、ソローの文学に見られる「嘆き」のレトリックには、バーコピッチが主張したピューリタンのレトリックのほかに、少なくとも二つの歴史的な要素が介在した。ひとつは、合衆国の独立であり、その独立戦争の火蓋を切ったとされるコンコード・レキシントンの戦いである。そしてもう一つは、1820, 1830 年代に起こった郷土史ブームであり、入植二百年祭を機に広まった地域の誇りと郷土愛のようなものであった。

本研究課題はバーコピッチの「アメリカのエレミヤ」を論拠としながらも、マサチューセッツの歴史性が創出された背景を加味することで、ソローの文学において「コンコード・エレミヤ」とも呼べるレトリックが駆使された事実を指摘するものである。

さらに本研究課題に密接に関連する文献として、Jonathan Arac の *The Emergence of American Literary Narrative 1820-1860* (2005) および William Howarth の *The Book of Concord* (1982) が挙げられる。前者は、19 世紀前半、合衆国の国家のナラティブの形成と併行して地域の歴史、つまりローカル・ナラティブが形成された過程を論じており、また後者は、ソローの日記研究を中心として、ソローが生涯コンコードの地誌と精神風土を記述し「コンコードの物語」を形成した事実を指摘している。コンコード言説の核心はピューリタンの伝統とコンコードの戦いの英雄性であったのだが、ピューリタンの入植と独立戦争という、まさに合衆国の起源をなす物語をコンコード史は抱えていたのである。

## 2. 研究の目的

本研究は、19 世紀前半のマサチューセツ

州コンコードにおける歴史言説の形成とヘンリー・ソローの文学との関連性を考察するものである。申請者がすでに給付を受けた 3 件の研究課題と同様にソローやエマソンの文学を「コミュニティの文学」として読み直し、歴史化する作業の一環として着想された課題である。

1835 年、マサチューセッツ州コンコードは入植二百周年を迎えている。それを契機として Lemuel Shattuck による『コンコード史』(*A History of The Town of Concord, 1835*) が上梓されるのだが、エマソンは記念祭においてこの歴史書を引用しつつ「コンコードの歴史言説」(“Historical Discourse”) という講演を行なっている。さらに翌年ノース・ブリッジの記念碑建立の際には「コンコード讃歌」(“Hymn to Concord”) を朗読した。こうしたコンコード言説の形成と反復は、ソローの作品の中にも、さらにコンコードに一時滞在したホーソーン作品 (“The Old Manse”) にも見られるレトリックであった。

特に、ソローの作品においてはコンコードの歴史と伝統を理想化する傾向がきわめて顕著に見られるのだが、それは現実のコンコード社会を厳しく批判し「嘆く」諸刃の剣でもあった。いわば、ソローは「コンコード・エレミヤ」とも言えるレトリックを駆使しつつ、聴衆に、そして読者に語りかけたのだった。本研究では、19 世紀前半、ニューイングランドの各地に歴史協会が設立され地方史ブームが展開されたことを背景として、マサチューセッツ州コンコードにおいて形成された歴史言説とソローの文学の関連性を考察する。研究の手順としては、以下のとおり、3 つの観点から考察を進めるものとする。

- (1) 19 世紀前半における地方史ブームの考察
- (2) コンコード言説の構成要素とレトリックの分析
- (3) ソローの作品における「コンコード・エ

レミヤ」の分析

### 3. 研究方法

研究方法としては、以下のような三つの具体的な観点から考察を進める。

#### (1) 19世紀前半における地方史ブームの考察

19世紀前半ニューイングランド地方において各地に歴史協会が形成されるのだが、そうしたローカル・ナラティブ形成の要因と背景についてアラックの著書等を参照しつつ整理する。

#### (2) コンコード言説の構成要素とレトリックの分析

コンコードの歴史の創成についてはシャタック『コンコード史』あるいはエマソンの「コンコードの歴史言説」を参照するほか、さらに Edward Jarvis や Mary Hosmer Brown などコンコード住民による郷土史や回想録を参照し、その暮らしと精神風土について調査する。ただ単にコンコードにまつわる歴史的事実を洗い出すのではなく、そうした史実が反復され神話化された、その語りのレトリックについても考察する。

#### (3) ソローの作品における「コンコード・エレミヤ」の分析

ソローの「社会改革論集」(Reform Papers)と呼ばれるエッセイ群に顕著にみられる「コンコード・エレミヤ」というレトリックを分析し、ソローの政治言説がいかに密接にコンコード言説と関連していたか考察する。さらに、ソローの代表作『ウォールデン』の「経済」等の章に見られるコンコード言説についても検討する。

本研究の手順としては、前述のとおり、(1) マサチューセッツにおける地方史(ローカル・ナラティブ)の分析、(2) コンコードの歴史言説の分析、(3) ソローにおける「コンコード・エレミヤ」というレトリックの分析、が挙げられる。方法論としては、主に図書の購入(特に19世紀の郷土史や回

想録の復刻版の購入)、合衆国の大学あるいは公立図書館での資料収集が必須となる。

### 4. 研究成果

24年度中に本研究課題に関する単著『コンコード・エレミヤソローの時代のレトリック』(金星堂)を、さらに25年度に「ソローとダニエル・ウェブスター - 『コッド岬』のサブテキスト」(『アメリカン・ルネサンス 批評の新生』所収。開文社)、「経済と道徳 - 綿花をめぐる物語」(『環大西洋の想像力』所収、彩流社)を刊行して、ソロー文学を歴史的視座から考察するうえで一定の成果が得られたと確信する。他方において、課題として残されたのは、コンコード・レキシントンの戦いにおける義勇兵の役割、19世紀中盤における農業改革と市場経済の浸透等の考察である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2 件)

高橋 勤、 “Towards a Comparative Poetics: Sakutarō’s *Tsuki ni Hoeru* and Stephen Crane’s *The Black Riders and Other Lines*.” 『英語英文学論叢』(査読無)(九州大学英語英文学研究会)第64集、2014年、pp. 37-55.

高橋 勤、 「果てしなき宇宙—超絶主義思想と天文学」 『英語英文学論叢』(九州大学英語英文学研究会)(査読無)第62集、2012年、pp. 1-18.

〔学会発表〕(計 6 件)

高橋 勤、 「背後の自然—『ウォールデン』再読」(招待講演)九英会(九州大学文学部)、2015年2月21日.

高橋 勤、 “Beyond Duality: Thoreau’s Redefinition of Self-Culture.”

International Symposium on Literature and Environment in East Asia. Meio University. November 22, 2014.

高橋 勤、「根をもつということーソローの文化論」日本ソロー学会、於北星学園大学、2014年10月3日

高橋 勤、「事故と座礁の物語ーアメリカン・ルネサンス文学における悲劇性」九州アメリカ文学会第59回大会、於県立長崎シーボルト大学、2013年5月11日

高橋 勤、「野性の文化論」比較文学学会九州支部大会、於香蘭女子短期大学、2012年7月28日

高橋 勤、「殉教のレトリックーコンコード、プリマス、ハーバース・フェリー」九州アメリカ文学会第58回大会、於熊本大学、2012年5月8日

〔図書〕(計 5 件)単著 1、編著 1、共著 3

高橋 勤 他、Slovic, Scott, Swarnalatha Rangarajan, and Vidya Sarveswaran, eds. *Ecoambiguity, Community, and Development*. Lanham, MD: Lexington Books, 2014. "Minamata and the Symbolic Discourse of the South." pp. 59-69.

高橋 勤 他、『環大西洋の想像力ー越境するアメリカン・ルネサンス文学』彩流社、2013、竹内勝徳との共編)、A5版363頁。執筆担当 pp. 220-237.

高橋 勤 他、西谷拓哉・成田雅彦編『アメリカン・ルネサンスー批評の新生』(開文社、2013年)「ソローとダニエル・ウェブスターー『コッド

岬』のサブテキスト」, pp.61-81.

高橋 勤、『コンコード・エレミアーソローの時代のレトリック』、金星堂、2012年、A5版283頁。

高橋 勤 他、日本ソロー学会編『ソローとアメリカ精神ー米文学の源流を求めて』(金星堂、2012年)、『『ウォールデン』における奴隷制表象ー「より高い法則」をめぐる』, pp. 169-184.

〔産業財産権〕  
出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織 九州大学  
(1)研究代表者 高橋 勤  
(TAKAHASHI, Tsutomu)  
九州大学・言語文化研究院・教授  
研究者番号：10216731

(2)研究分担者 ( )

研究者番号：

(3)連携研究者 ( )

研究者番号：